

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2011年版） | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都産業大学新2号館(仮称)	階数	地上5階
建設地	京都府京都市	構造	S造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、市街化	平均居住人員	2,045 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,600 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年1月 予定	評価の実施日	
敷地面積	259,078 m ²	作成者	勝山太郎
建築面積	3,660 m ²	確認日	
延床面積	12,952 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 66%

③上記+②以外の 66%

④上記+ 66%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 既存建物との調和	その他 0	
Q1 室内環境 水平庇による日射遮蔽、Low-Eペアガラスによる日射遮蔽と断熱性向上による空調負荷の軽減	Q2 サービス性能 高耐久性外装材として外壁にれんが中空積みを採用	Q3 室外環境(敷地内) 樹木を建物全面に植栽、既存樹木の保存
LR1 エネルギー LED照明器具の採用、窓に網戸設置、太陽光発電の設置	LR2 資源・マテリアル 京都産木材を一部使用	LR3 敷地外環境 屋外広告物照明なし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される